

業務部速報



No. 6

発行 23. 7. 13

JR東労組 業務部

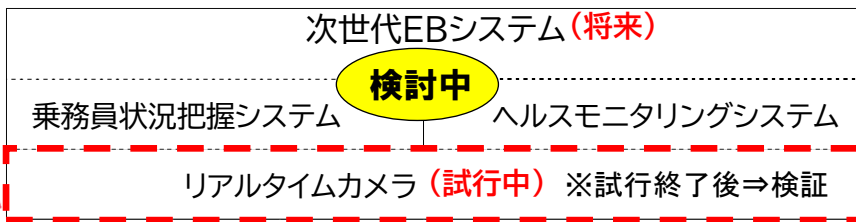
2022年度
申14号

「乗務員状況把握システム リアルタイムカメラの施行」に関する申し入れ 団体交渉を行う！

7月12日、申14号団体交渉を行いました。現在、中央・総武緩行線で行われている「リアルタイムカメラ」のカメラ機能の試行についてと、今後の技術開発も含め検討しているシステムについてを中心に議論を行いました。以下、議論の特徴点です。

※「乗務員状況把握システム リアルタイムカメラの施行」イメージ

現在の
議論は
ここ



- ・体調不良がどこまでか曖昧!
- ・カメラがあると監視されているようでストレスだ!
- ・カメラが気になり集中できない!
- ・管理者が乗務態度は見えないというが、本当にそうなのか疑問だ!
- ・現場の声に返していただきたい!

現在 今回の試行について ※試行期間 2023年6月から8ヶ月程度

- ・今回の試行は、カメラの検証として機器の動作状況や画像状態、通信状態の確認を行うことを目的に設置している。それ以外には使用しない。録画する目的は、通信状態、朝日・夕日等の光の状態、夜間帯、トンネル内、天候等の状況を録画データで検証するため。
- ・画像データの管理は本社のモビリティサービス部門の輸送品質ユニットと車両チームで行っている。リアルタイムで把握する場合も同箇所で行う。確認できるPCは1台のみ。
- ・試行中に事象が発生した場合、画像で確認することはない。

現行試行しているリアルタイムカメラについて目的外使用しないことを確認！

将来 乗務員状況把握システムについて

- ・体調変化(脈拍や血圧)を検知して通知を受け把握するもの。リアルタイムカメラとは別の装置。複数のメーカーで研究・開発をお願いしている。
- ・体調変化の通知を受けた場合に、リアルタイムカメラで乗務員の状態を確認する。

乗務員状況把握システムで通知を受けた乗務員の体調の確認以外には使用しないことを確認！

組合の主張

- ・会社回答は、乗務員の状況把握することが目的に見える。
- ・乗務員の把握よりは、乗務員を守り、安全を守るということを大きな目的にしなければ、様々な懸念が生まれる。現場に行けば行くほど目的外使用の懸念がある。その風土自体がどうなのか問題意識がある。
- ・本実施までの議論は必須である。技術開発が不十分なまま、人間の判断が増えると様々な歪みが出てくる問題意識がある。
- ・管理者が24時間いて、画像管理もそうだが判断するとなると、判断の責任もまた出てくる。乗務を降ろすにも継続するにも、短絡的な判断に陥るのも管理者の負担になり、責任も重くなる。
- ・現段階で懸念材料がある。組合としては、このままカメラ設置についてそうですかとならない。

さらなる安全性の向上と働きやすい環境を求め職場で議論を深めよう！